

情報モラルおすすめ実践報告の記入項目

◆実践授業のタイトル

絵本から伝える情報モラル授業

絵本「七ひきのねずみ」を使った情報モラル理解

◆実施した学校の校種(必須)

小学校 中学校 高等学校 その他

◆実施したのは

現在の勤務校 前任校 その他

◆実践したクラスのサイズ

少人数(10名未満) 1クラス 10~30名 1クラス 30名以上

学年全体(または数学年合同) 学校全体 その他

◆学年

1年 2年 3年 4年 5年 6年

学年合同 その他

◆教科

道徳 国語 総合 社会 技術 家庭

学活(HR) 特別活動 図工 情報 倫理

その他の教科または時間

◆時間数

1 2 3 4 5 教科の空き時間(15-30分ほど)

◆授業のねらいと概要

授業では、絵本を授業に取り入れネットモラルを学ばせることをねらいとした。低学年の児童でも大好きな絵本を使いネットモラルに繋がる道徳心を潜在意識に埋め込めば、インターネットを使い出した時にネットモラルとその記憶が結びつき理解が深まると考える。絵本は7匹のねずみが象に出会うお話である。しかし6匹が伝えたのは鼻、耳など体の一部分を柱、扇と伝える誤った情報である。授業ではこの情報をもとに見た物を考えることで、不確かな情報の不便さを子供に体験させる。最後に白ねずみは、端から端までよく見て象と理解する。子ども達は、ねずみたちとともに「情報は正確に、全部をきちんと見る」ことの重要性を学ぶことができると考える。

情報モラル指導モデルカリキュラムとの関連

■この時間での情報モラル指導のねらい

情報には誤ったものもあることに気づく、鵜呑みにしない

上記に関するあなたの授業での学習目標を記述してください。

- ・話は一部分だけで判断するのではなく、全体をよく聞き相手の状況を考えて判断することの必要性に気づくことができる。

情報の中にはモラルに反するものや誤ったものがあることを知る

授業の詳細

◆授業の流れ

【導入】【展開】【まとめ】の3つに分けて書いてください。数時間にわたる単元の場合は、全体の時数に対して(第1時～〇〇時)というように大きく3つに分けてください。)

【導入】

絵本を示し、登場するネズミや表紙を見せたりして興味を喚起する。

【展開】

まず絵本の前半部の読み聞かせを行うが、絵本の挿絵は見せず言葉だけでお話していく。登場してくる色ネズミが見た物く 赤ねずみ～がっしりした柱、緑ねずみ～くねくねへび、黄ねずみ～とがったやり、紫ねずみ～おおきな岩、オレンジねずみ～ひらひらせんす、青ねずみ～ふさふさのなわ>を手がかりに、何をみたのか話し合いを行う。見た物の絵も用意しておき、子ども達に自由に組み合わせたりして想像し合う。子ども達にとっては楽しい活動であるが、様々なイメージがでて混乱してしまい見た物の情報が伝わらない不便さを味わうことになる。

十分に困惑させた後、絵本の後半を読み聞かせる。白ネズミは相手の隅から隅までを調べ、全部を見てそれが象であることを確認する。ここで子ども達も、相手が象であったことを理解する。

【まとめ】

子ども達に、「自分たちはなぜ象だとわからなかったのか？」と尋ねる。子ども達は、自分たちや色ネズミが、一部分のしかも主観的な（誤った）情報をもとに考えていたからだ気づく。そして情報はきちんと確認することの重要性を理解することができる。

また、ネット通販で情報をきちんと確認せず違った商品を購入してしまった教師の失敗談を聞き、インターネット上でのネットモラル理解に関連させた後、ワークシートに感想を記入して終える。

◆この授業での指導のポイント・留意点は何ですか。

主観的な誤った情報である色ネズミの話をもとに、見た物は何だったのか時間をかけて想像させるところである。不十分な情報は混乱のもとであることを身をもって体験することで、授業の目標に容易に到達することができる。

◆子どもたちの反応はどうでしたか。

絵本は子ども達の大好きなものであり、読み聞かせを楽しむことができた。色ねずみの情報をもとに見た物はなんだったのかと様々想像を巡らす段階では、「へびの串焼き!」「ロボット?」「大きな鳥!!」「かいじゅう?」と7~8種類の答えがでた。どの答えにも大きな笑い声が響き楽しい授業時間であった。

やがて、子ども達がもう困ったという段階まで来たとき後半のお話を読むと、「白ねずみは全部しっかりみたから象だとわかったんだね。全部ちゃんとみないといけないんだね。」と素直にねらいを理解することができた。また、教師の失敗談をきくと「コンピューターでお買い物をするときも、ちゃんと見ないと失敗しちゃうから気をつけたい。」と目標にせまることができた。

◆今後の展開や課題をお書きください。

今後も子ども達は、情報をきちんと確認せず失敗することがあるであろうがその時は「色ねずみさんになっちゃうよ。」と注意することで、情報は全体を確認して正確に受け取る必要があることを理解させていきたい。

また、絵本という子どもの飛びつきやすい題材を利用してネットモラルの理解を深めていくためには、良い絵本の選定が必要であると考えている。

『絵本から伝える情報モラル』

発案者：永坂武城 考察

絵本を情報モラル指導に取り入れることによって短時間で深い理解をさせることができます。なぜならば、絵本には、「心を動かす」強い力と、「心に染み入る」静かな力があるからです。児童は絵本から過去の自分の体験や潜在意識とリンクをさせながら自らイメージを膨らませます。そのイメージが膨らんだ段階で問い掛けをすると発想がしやすく児童は自分で気づきを見つけることができると、2つの実践授業から確認することができました。

情報モラル授業では禁止事項などの説明だけをして終わってしまっただけでは不十分です。算数の授業で行われる練習問題にあたる「確認行為」を情報モラルでも行わなければ児童は深い理解を示すことができないようです。理解をさせる基本である「説明→考えさせる(問い掛け)→確認をする」を情報モラル指導にも確実に取り入れるべきと考えます。情報モラル指導における確認行為は授業の感想を書くことが適していると思われます。それは自分の言葉で表現をしなければならなくなる為、指導者は児童の理解度を把握することができるからです。

情報モラル指導を行う際には幾つかの要素を理解させなければなりません。法律を含む「ルールを理解させること」また即効性を必要とする「禁止事項の説明」そして「人としての本質的な心の部分」などが掲げられます。ネットトラブルが起きる原因として考えられる主な要因は別紙に示した『子どもは知らない！親が教える情報モラル13のポイント』が主なものとなると思われます。これらの子供にただ教えればよいのではなく、本当の意味で理解をさせなければなりません。即効性を期待した指導方法では応用力や判断力を育てることは効果が薄いと思われます。

薬に例えれば頓服は即効性がありますが副作用の危険性も高くなります。それに比べ漢方薬は時間が掛かりますが体質改善をし、**本質的な効果を期待**することができます。

絵本にはこの漢方薬的な要素が含まれているのではないのでしょうか。絵本は子供の心奥深くに語りかけモラルをじっくりと育てます。また、絵本は朝読などの短い時間を有効に活用して効果を上げることができます。絵本から得たモラルを学校の日常生活の中でも繰り返し問い掛けることによって児童に染みこむように伝わるものと思われます。別紙にあります『絵本リスト』に掲げた絵本には、どれも情報モラルに必要な心が描かれています。今後も情報モラルに係わる子供達の心を育てる選書作業を続けて参りたいと思います。

情報教育研究所

<http://www.kyoiku-labo.jp/>